

〈新企画〉

東日本大震災・原発事故から15年

それでも日本に 原発は必要か



ジャーナリスト、作家
青木美希

研究者だった父

今回から6回、連載させていたんだけど、ことになりまして青木美希です。よろしくお願ひいたしま

〈1〉 復活する「安全神話」

原発の記事を載せようとしても阻まれることが多い。2020年に記者職を外されてしまいま

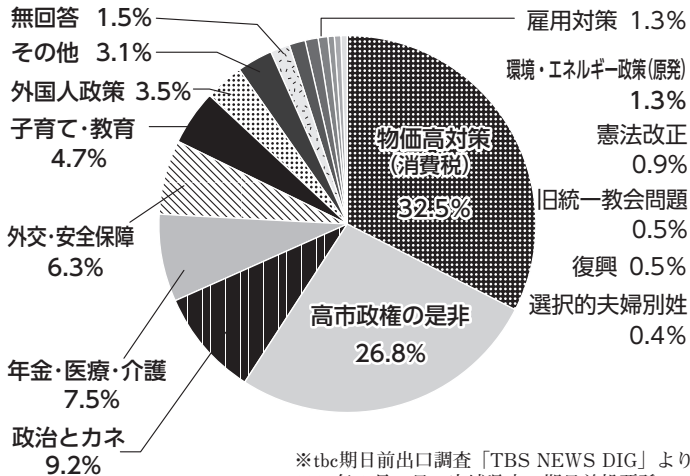
対立軸にもならず
いまはどうでしょう
か。再び、原発は安全だ

原発事故の影響や原発のデメリットを知る機会をみなさまが奪われているからです。

※YouTube「あおタイムス」で、原発やその周辺の今を発信

東京電力福島第一原発事故から15年。原発推進の高市早苗さんのもとで行われた選挙は自民の歴史的勝利となり、今後原発の再稼働、新設が加速することが予想されます。こうした時期に、この連載を依頼いただき、気が引き締まります。簡単に自己紹介をさせていただきます。実家は三世代同居で、祖父が電力会社社員、父が当初原子力研究者だったことから、エネルギーについて疑問に思いながら育ち、地方紙、全国紙と3つの新聞社の記者をして調べてきました。全国紙では

衆議院選挙 期日前投票で最も重視した点は何ですか



※tbc期日前出口調査「TBS NEWS DIG」より2026年2月1日、宮城県内の期日前投票所17カ所で、2039人が回答。

メディアの責任

議論されないまま、原発再稼働容認が増えていきます。なぜでしょう。

あおみき 札幌生まれ。新聞社3社に勤務。大震災直後から取材を続け、新聞協会賞、脱原発文学大賞などを受賞。日本ペンクラブ言論表現委員会副委員長。『それでも日本に原発は必要なのか?』(文春新書)など著書、共著多数

ホットラインの投稿は編集部メールアドレス s-press@shinfujin.gr.jp へ

ホットライン

埼玉 6年ぶりの新年会



明るい幕開け▲埼玉

高まりました。新年会で恒例だったたんぼ班すごろくは、班の50年の歴史を辿りながら楽しく盛り上がり、明るい新年の幕開けに。

東京

着物を楽しむ会
もうじき20年

【青梅支部スイトピー班 武川みち子】着物を楽しむ会(小組)を始めてもうじき20年、コロナ時は休会しましたが、月1回のペースで会員宅を借りて続けてきました。退職したからじっくり着たい、孫の着付けをしたい、亡くなった母や祖母の着物があるから、お茶を習っているなど理由はそれぞれ。お正月には必ず着るようになったという人もいます。

大阪

ヘルマンハープ
で歌う会

【高槻支部すみれ班 竹内啓子】2024年7月に誕生した「ヘルマンハープで歌う会」は会員8人。ヘルマンハープは、ドイツ生まれのやさしい音色が魅力の弦楽器で、楽譜を弦の下に置いて演奏します。



「卒業」記念の一枚▲東京

北海道

フェルトで作りました
作りました

【札幌豊平支部 五十嵐直子】1月24日号8面『女性の休日』アクション!」を見て、常任委員のYさんが手持ちのフェルトで作ってくれました。支部では国際女性デー



身に着けて▲北海道

に呼応して街頭宣伝を予定。このバッグをつけ赤いものを身につけて元気にアピールします。